

血液がたまって静脈が浮き上がった脚^④。右はストリッピング手術と硬化療法を受けた後の脚



清水クリニック

石原浩院長

専門医が診る



脚の静脈がこぶのように浮き出る下肢静脈瘤^⑤。30代以上の女性に多く見られ、脚のむくみや痛み、こむら返り、皮膚のただれなどを起こすこともある。下肢静脈瘤専門外来の清水クリニック(広島市南区)の石原浩院長に治療法を聞いた。

下肢静脈瘤

(教蓮孝匡)

一どのような病気ですか。脚の静脈内で血液の逆流を防ぐ「弁」が機能しないために起こります。心臓から動脈を通って脚に送られた血液は、静脈が浮き出ると、色素沈着や潰瘍を引き起こすことも

かかって進み、心臓に戻ります。しかし、何らかの理由で静脈の弁が利かなくなると徐々に血液がたまり、静脈が浮き出ます。重症化すると、色素沈着や潰瘍を引き起こすことも

「レーザー」普及 治療に幅

いしはらひろし 45年島根県邑南町生まれ。71年京都大学医学部卒。京都大病院心臓血管外科、安佐市民病院心臓血管外科主任部長、清水クリニック副院長などを経て、10年7月から現職。年間約500例の下肢静脈瘤の手術を手掛ける。心臓血管外科専門医認定機構名誉専門医。

FILE 27

あります。

レーザー治療が広がっているそうですね。

2011年1月に保険適用となり、患者が選りやすくなりました。これは、患部の血管を熱で焼いてしまう方法です。まず、膝やふくらはぎの皮膚をメスで数ミリ切開、または注射針で刺します。次に、細長いグラスファイバーを静脈に挿入。先端からレーザーを照射しながら少しずつ手前に引き、静脈の内側を焼きま

りますか。

最も一般的なのは、患部の静脈を引き抜いてしまうストリッピング手術です。皮膚の切開部から静脈に細いワイヤを差し入れ、手元側のワイヤの端と静脈とを糸で結びます。もう一方の先端側の皮膚を切開し、そこからワイヤを引っ張って静脈ごと抜き取ります。局所麻酔ででき、手術時間もレーザー治療と同じくらい。根本的な治療なので、高い効果があります。

このほか、静脈内に接着剤のようなものを注射して血管を小さく硬化療法や、静脈の

体への負担は軽いいえます。

ただ、静脈が太いと、焼き切れずに完治しないことがあります。強く蛇行している場合もグラスファイバーを挿入しにくいので、レーザー治療には適しません。

一予防法は。長時間の立ちっ放しや座りっ放しはよくありません。重

根元を縛って血液の逆流を防ぐ高位結紮術などがあります。事前の超音波検査で静脈の拡張や逆流の程度を詳しく調べ、最適な治療法を導きます。当院では、ストリッピングとレーザーを組み合わせて治すことが多いです。主要な患部の静脈は引き抜き、太ももの付け根近くや網の目状に枝分かれしている部分は、レーザー治療や硬化療法を施しています。

ここがポイント

治療技術が進み、どの手術も短時間で済み、日帰りでできるようになりました。体への負担が特に軽いレーザー治療も保険適用になりました。そのため、治療の幅は広がっています。

レーザー治療のメリットは何ですか。手術時の出血量が少なく、治療の痕も残りにくいことです。手術は局所麻酔を使って30分前後。術後1時間ほど休めば歩いて帰ることができ、

質問や相談募集

下肢静脈瘤について石原院長への質問や相談を募集します。〒730-8677中国新聞社文化部「専門医が診る」係まで。ファクス082(291)5828、メールkurashi

@chugoku-np.co.jpでも受け付けます。11日必着。掲載は匿名ですが住所、名前、性別、年齢、職業、連絡先を明記してください。